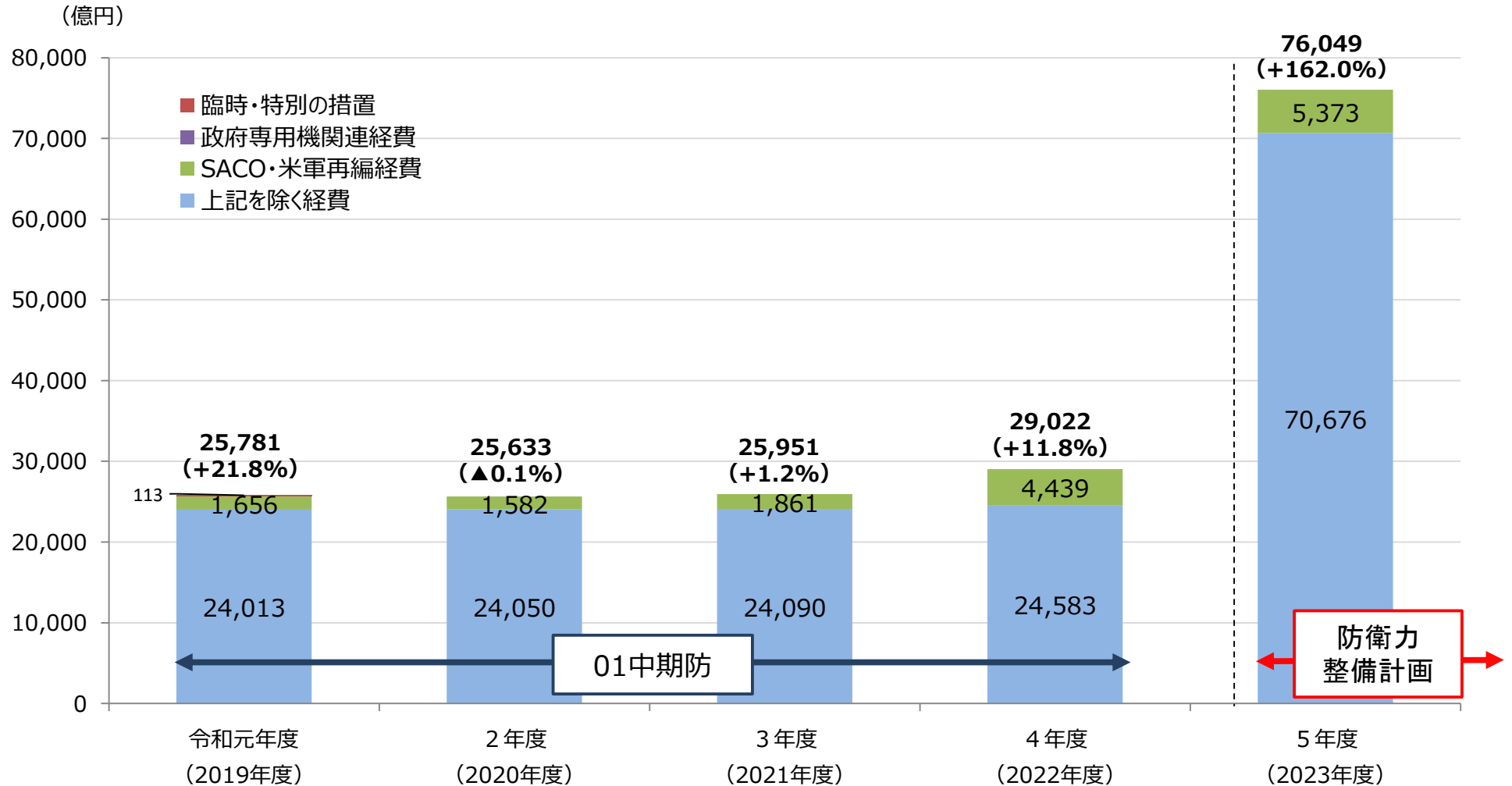


# 新規後年度負担額の推移



(注1) 当初予算ベース

(注2) ( )内は対前年度比

(注3) 令和3年度は217億円、令和4年度は189億円、令和5年度は375億円のデジタル庁計上分を含む。令和5年度のデジタル庁計上分を除いた防衛省所管の防衛関係費に係る新規後年度負担は、7兆5,674億円。

(注4) 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策に係る経費として、令和元年度は113億円。

## スタンド・オフ防衛能力

- 隊員の安全を可能な限り確保する観点から、相手の脅威圏外からできる限り遠方において阻止する能力を高め、抑止力を強化。

### ■ 12式地对艦誘導弾能力向上型の開発・量産

陸自

装備庁

12式地对艦誘導弾能力向上型（地発型・艦発型・空発型）について開発を継続。地発型は早期部隊配備のため量産を開始。



12式地对艦誘導弾能力向上型  
(イメージ)

5年度予算案

開発：338億円

量産：939億円

### ■ 島嶼防衛用高速滑空弾（能力向上型）の開発

装備庁

早期装備型から射程を延伸する能力向上型を開発。



島嶼防衛用高速滑空弾  
(能力向上型) (イメージ)

5年度予算案

2,003億円

### ■ 極超音速誘導弾の研究

装備庁

極超音速（音速の5倍以上）の速度域で飛行することにより迎撃を困難にする極超音速誘導弾について要素技術の研究成果を活用し、誘導弾システムとして成立させるため運用実証型研究を開始。



極超音速誘導弾 (イメージ)

5年度予算案

585億円

### ■ トマホークの取得

海自

イージス艦の垂直発射装置から発射可能な米国製の艦対地誘導弾を取得。



トマホーク (イメージ)

5年度予算案

2,113億円